平成２２年度　地域活性化事業交付金　交付決定事業実績　【光が丘地区】

平成23年3月31日現在

団体名	事業等の名称	事業実績の概要				交付決定	交付金額
		事業の目的	事業の実績	事業の成果	自己評価	年 月 日	（単位：円）
光が丘わが町フェスタ実行委員会	光が丘わが町フェスタ	公園という多くの人が集まる場所でのイベント開催により、地域団体のPRや来園者からの意見聴取を行うことにより、新たな活動の担い手の発掘など、より広がりをもった活動の促進を図る。	47団体にご協力いただき、延べ60事業を提供した。 【主なもの】 ●ｽﾃｰｼﾞでの発表･･･米陸軍軍楽隊、弥栄高校吹奏学部、北里大学ｼﾞｬｸﾞﾘﾝｸﾞｸﾗﾌﾞなど ●広場での発表･･･桜美林大学ﾁｱﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ部、自転車ﾄﾗｲｱﾙ、鼓笛隊など ●団体の活動PR･･･地区自治会連合会、地区社会福祉協議会など ●各種啓発ｺｰﾅｰ･･･健康ｺｰﾅｰ、交通安全ｺｰﾅｰ、防災ｺｰﾅｰなど ●体験・教室ｺｰﾅｰ･･･少年野球教室、ｺｰﾅｰ大会、子どもの遊びｺｰﾅｰなど ●模擬店･･･地域団体、後援企業	光が丘地区で活動する公共的な団体が協働して、ひとつの事業に取り組んだことは、今後のまちづくりを考える上で、非常に有益であった。事業実施後に行った参加団体アンケートでも、次回も参加したいといった前向きな意見が多くみられた。 また、参加団体の活動事例紹介などを通して、一般来場者にも、少なからず、地域活動に関心を持っていただけたと考えている。 さらに、区内の教育機関等にもご協力をいただいたことで、新たなネットワークができたことは、大きな収穫であった。	光が丘地区のまちづくりの見本市をゼロから企画し、地域が一丸となって開催し、約1万人の方にご来場いただいたことは、たいへん大きな成果であった。 今回は第1回目ということで、多くの方にお出でいただき地域に関心をもっていただくことに主眼をおいた内容としたが、今後は、この来場者の中から、まちづくりの担い手が出てくるような仕掛けを考えていきたい。	H22.7.1	1,700,000
光が丘地区社会福祉協議会福祉の里づくり推進委員会	若者世代の地域活動への参加促進事業	光が丘地区は、地域住民のつながりは極めて強いが、このコミュニティの持つ強みも、次の世代に引き継がれていかなければ、ますます進行していく高齢地域の将来が危ぶまれる。そこで、継続的に若者世代が地域活動に参加する機会を提供し、その参加促進を図る。	地区社協･民児協･公民館･自治会が主催する各事業に、若年層がサポート隊として一定の役割をもって継続的にボランティア参加できるしくみを構築した。 ①シンボルとなるTシャツのデザイン考案も若者世代自身がかかわりをもてるようにし、弥栄高校生2名のデザインを採用した。 ②ボランティア活動者はTシャツを着用してアピールすることで参加者の裾野を広げる効果があった。 ③在学中も卒業後も一貫した活動とするために、個人ごとに一冊の「若者サポートハンドブック」を作成し、継続活動できるようにした。	地域内外にある学校（桜美林大学・和泉短大・弥栄高校・緑が丘中学・弥栄中学・青葉小学校）に通学する若者及び地域に在住する若者世代に、参加の仕方を自ら考える機会を提供することができ、自然に地域社会の抱える課題に気付くきっかけをつくることができた。 ①地域内外の学校6校の協力を得られ地域と学校の関係がより密接になった。 ②「若者サポートハンドブック」により若者世代の考えを知ることができた。 ③ボランティア参加校が増加し、また参加人数も増加した。 ④各事業が活気あるものとなり主催者・参加者から喜ばれた。	①地域住民と周辺の学校の関係をより密接にする施策とすることができた。 ②卒業と同時に終了ということなく地域活動に継続的に参加できるようになった意義は大きい。 ③参加者の声を聞くと次のような意見が多く出ており成功であったと判断する。 「最初は不安だったが参加してよかった」「達成感を味わえた」「知らない人のやさしさに触れた」「また是非参加したい」	H22.8.2	590,000
光が丘子育て研究会	学び、つながり、支えあう地域子育ての輪	子育てに関する知識の習得や情報提供を通じて、個々の子育てに活かすとともに、若い母親達のネットワークづくりを目指す。さらには、地域内で実施されている各種子育て支援事業の充実と支援事業を担う人材の育成につなげる。	・保育実習を見学するとともに、学生との意見交換を行った。 ・和泉短期大学の井狩芳子教授を招き、講義をいただいた。 ・地区内で子育て支援を行っている各種団体から事例発表などをいただいた。 ・各種子育て支援事業について、調査・研究するとともに意見交換を行った。 ・事業結果の整理し、広く地域で活用できるまとめ誌を作成した。	・和泉短期大学の協力が得られ、同大教授の講義や、講師や学生の実習などを通じて、参加者の子育てに関するスキルアップを図ることができた。 ・光が丘地区における各種子育て支援事業について調査・研究する中で各事業スタッフ等との意見交換を行い母親側からの要望などを伝えることができた。 ・サークルや年齢層を超えた参加者を得られたことは、地域における子育てネットワークづくりに向けた大きな契機となった。 ・事業結果をまとめ誌として作成し地域内に配布したことで、事業成果の共有を図ることができた。	・若い母親だけでなく子育て事業に携わっているスタッフなどの参加が得られたことはとても良かった。様々な立場から意見交換が出来たことは、今後の地域における子育て環境の充実に向けて大いに意義あるものとなったと考える。 ・若い母親達が中心的な構成員となっており、子どもの関係から時間的に制約がある中で、一定の成果はあげられたと思う。	H22.12.18	136,000
							2,426,000